

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1470400274
法人名	社会福祉法人伸こう会
事業所名	クロスハート中・横浜
訪問調査日	平成20年10月17日
評価確定日	平成20年11月 11日
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1470400274
法人名	社会福祉法人伸こう会
事業所名	クロスハート中・横浜
所在地	横浜市中区若葉町3-46-1 (電話)045-250-3511

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成20年10月17日	評価確定日	平成20年11月11日

【情報提供票より】(平成20年10月7日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 11年 3 月 25 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	5 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 4.7 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り
	3 階建て、3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	53,300 円	その他の経費(月額)	65,700 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(125,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,000 円	

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	3 名	要支援2	名		
年齢	平均 84 歳	最低	72 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	公田クリニック、社会保険横浜中央病院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<ul style="list-style-type: none"> ・事業所は、横浜市営地下鉄坂東橋駅から徒歩5分の所に位置し、周囲を商店に囲まれた都市型のグループホームである。 ・法人の理念である「すべての良きものを人生の先輩たち後輩たちにささぐ」を基本に、「スロー・キャッチ・スロー/伝える・伝わる」を、事業所の理念として掲げ、利用者との相互のコミュニケーションを大切にサービスを行っている。 ・法人内の看護ステーションから、週1回訪問看護がある他、同法人の他のグループホームに花見に出かけるなど、法人の特徴を活かして支援している。 ・毎日、午前中の買い物には必ず利用者と共に出かけている。又、天気の良い午後には川沿いや伊勢崎モールに散歩に出かけている。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) <ul style="list-style-type: none"> ・前回の評価での課題についての改善状況は次の通りである。 ①地域とのつきあいは、町内会に入会し祭りなどの行事に参加している。 ②災害対策では、近隣の商店主と連携して訓練を行なった。非常階段も改良した。 ③自己評価票作成への職員の参加は今後の課題である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) <ul style="list-style-type: none"> ・職員は外部評価の意義は理解しているが、自己評価票の作成には参加せず。管理者とホーム長が作成して取りまとめた。 ・評価結果はスタッフミーティングで報告している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) <ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議は、昨年12月以降は開催していないが、この12月に計画している家族会と同時に実施する予定である。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) <ul style="list-style-type: none"> ・年2回、家族会を開いて家族の意見や苦情を聞いて、運営に反映している。 ・運営規定に、家族の意見や苦情を積極的に聞き、改善措置を行うことを明記し、家族にも説明している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) <ul style="list-style-type: none"> ・町内会に入会していて、縁日やお祭りなど町内の行事には、利用者と共に参加している。 ・近隣の商店主から、防災訓練などに協力して貰っている。繁華街にグループホームがあることの利便性が認識されてきた。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・事業所の理念として「スロー・キャッチ・スロー/伝える・伝える」を掲げている。 ・利用者・職員・家族・地域の人たちとのコミュニケーションを大切にし、利用者が地域の中でその人らしく暮らせるように支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・理念は、リビング内の事務所の入口に掲示している。 ・月1回のスタッフミーティングで、管理職と職員は、理念が介護の現場で具現化しているかを再確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・町内会に入会し、お祭りや縁日には利用者も参加している。また、敬老の日には町内会から利用者にお祝いの品が届いている。 ・買い物や散歩に出かける際に、利用者と近所の人が気楽に声を掛け合っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・職員は外部評価の意義を理解しているが、自己評価票作成には参加せず、今回は管理者とホーム長が取りまとめた。 ・評価結果はスタッフミーティングで発表している。	○	・自己評価票の作成に当たっては、全職員が取組みに参加して、現在提供しているサービスの課題に気付き、今後の改善のステップとすることが期待されます。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議は昨年12月以降は、開催していない。今年12月の家族会と併せて開催する予定である。 ・メンバーには、若葉町自治会長、不老町地域ケアプラザ所長、民生委員、家族代表を予定？している。	○	・年3～4回運営推進会議を開催し、各方面からの意見を参考にして、サービスの向上を図ることが望まれます。

クロスハート中・横浜

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・介護保険の更新や区分変更時には、中区役所に出かけて担当者で面談し、情報交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・毎月、ホーム便りと預かり金の報告とともに、利用者の生活状況や行事参加の様子を家族に報告している。 ・家族の来訪時には、利用者の医療への受診状況や健康状態を説明している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営規定に明記の通り、家族の意見や苦情を積極的に聞き、運営改善に生かしている。 ・一階の玄関に意見箱を設置している。年2回家族会では、家族ごとに意見や要望を聴取している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・これまで管理者が一年で異動していたが、現管理者は異動を最小限に抑えることで、利用者に不安感を与えないようにしている。 ・職員は常勤者が多く、定着率が高いので利用者とはなじみの関係ができています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人の研修計画で、職員の育成が計画的に行われている。 ・東京センターやグループホーム連絡会の研修に参加し、受講者は内容をスタッフミーティングで報告し、共有化を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・中区6区のグループホーム連絡会に加入している。 ・10月と11月に、連絡会で本牧原地域ケアプラザの見学会を行い、事業所内でのサービス提供の参考にしていく。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入居希望者には、管理者やケアマネージャーが居宅を訪問し、事業所での生活内容を説明している。 ・見学時には、家族と一緒に泊まってもらい、お互いが納得してから入居を決めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・職員は、食事の献立や味付けを教えてもらうなど、利用者から学び、お互いに支えあう関係を築いている。 ・どのような小さなことでも目標を持つようにし、それを達成したときは、職員とともに喜びを分かち合っている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・買い物するとき、食べたい物を聞いて献立に反映している。衣料品は、利用者の日常生活を観察して適宜買い揃えている。 ・意思表示が十分にできない利用者場合は、家族を通して要望を聞くようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・担当職員2名が、2週間から1か月間、利用者を観察し、更に、家族や関係者の意見を入れて、アセスメントを補完し、職員全員が出勤できる日にケース会議を行って、ケアプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・入居直後は、利用者個々の変化を観察して、こまめに介護計画を見直し、心身の状況が安定してからは、3か月毎に見直している。 ・見直し以前でも、利用者の状況に応じて、随時ケアプランに反映している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・法人内の看護ステーションから週1回の訪問看護がある他、同法人の他のグループホームへ花見に出かけるなど、法人の特徴を活かした支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・希望により、掛かりつけ医を利用している家族や利用者もいるが、内科医は月2回往診しており、他に週1回、歯科医の往診があり口腔ケアを行っている。 ・利用者の通院に当たっては、法人内のクロスハートケアセンターのヘルパーが同行している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・ターミナルケアを実施している。これまでに、1名の看取りを経験している。 ・入居時に、利用者の容態が悪化したときの施設の対応について家族に説明し同意を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・職員から入職時に、個人情報保護の誓約書を取っている。 ・利用者の呼びかけは、苗字をさんづけで行い個人の尊厳を損なわないように配慮している。調査訪問当日の職員の対応は適切なものであった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・職員は、事業所の都合を優先することなく、利用者一人ひとりが自分のペースで生活できるように支援している。 ・自分の意思表示ができる利用者には、本人の希望を聞いて対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・献立は常勤者が作成している。買い物のとき利用者から希望があれば、可能な範囲で応じている。親子丼やカツ丼の出前をとることもある。 ・利用者は、能力に応じて職員と一緒に配膳、下膳を行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・自立者には、午前、午後の好きなときに入浴してもらっている。夕食後就寝前に入浴の希望があれば対応している。 ・介助の必要な利用者には最低月9回入浴するよう支援している。同性介助の希望にも応じている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・利用者には、配膳、下膳、食器洗いなど役割を持ってもらい、残存能力を活かして、規則正しい生活が送れるように支援している。 ・ボランティアによる、民謡や習字、塗り絵、ゲームなどを楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・毎日の買い物には必ず利用者と共に出かけている。 ・天気のよい日はできるだけ外出支援を心がけており、近くの大岡川浴いや伊勢崎モールに散歩に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・繁華街にあるため、防犯上共同ビルの1階玄関には鍵をかけているが、3階のホームの入り口は施錠していない。 ・職員は常に利用者の居場所を視野にいれて見守っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・消防署の協力を得て、火災や地震を想定し、年2回防災避難訓練をしている。 ・課題になっていた非常階段は対策が取られていた。 ・3日分の食料・飲料水を備蓄している。	○	・町内会や自衛消防団との防災協定を締結し、防災訓練を合同で、行なうことが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・毎日の摂食量や水分摂取量をチェックして記録している。 ・法人の栄養士に、献立表を1週間に一度FAXして、カロリーの過不足や栄養バランスのチェックを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・リビングは明るく清潔である。利用者はテレビを見たり、談笑して、思い思いにくつろいでいる。 ・近日中に、手すりの設置や、死角を無くし職員の眼が利用者へに届くよう、リビングルームのリフォームを予定している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・利用者は、居室に使い慣れた家具やテレビ、冷蔵庫など自分の好みに応じた備品を持ち込んでいる。 ・転倒防止のため、畳を使用している利用者もいる。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム クロスハート 中・横浜
(ユニット名)	1
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市中区若葉町3-46-1
記入者名 (ホーム長)	仁科 光修
記入日	平成 20 年 9 月 30 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	グループホームの理念として、「伝える・伝わる」をベースに入居者や職員や家族や地域の方々とのコミュニケーションを大切にしている。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	毎月1回から2回のスタッフミーティングをして問題点や連絡等を行なっている。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	地域的に困難。家族に対しては入居時に説明している。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	伊勢佐木モールや横浜橋商店街へ毎日買出しに行く際に挨拶や声掛けは気軽に出来ているが日常的な付き合いは難しい。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	町内会等の行事には参加している。	○ 4年前に火事があり、近隣の方々に助けていただいたこともあり、今後も積極的に参加をしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>環境整備として、不定期ですがご利用者様と玄関周りの掃除やゴミ置き場の清掃等を一緒にさせて頂いている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>第三者が入ることで焦点が絞れサービスの向上が図れること。マンネリを打破してサービスの改善、見直しを図れる事など。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>今年はまだ実施できていません。</p>	○	<p>12月に家族会を予定しています。その時に並行して開催できればと思います。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>今年はまだ実施できていません。</p>	○	<p>不定期ですが、表敬訪問しております。生活保護課や介護保険課などへ</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>支援しております。 区のケースワーカーと生保受給者の件でアドバイスを頂いている。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者研修にて学びましたが、職員に対しては学ぶ機会を設けておりません。注意を払い防止に努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、退所時に説明している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	改めての機会は設けていませんが、表現を自由にして頂いております。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月行なっている。 健康状態や行事などを報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時等に話し合う場を設けている。家族会を年2回行なう予定である。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングを行なっている。毎月行ないたいが、状況により出来ないときもある		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行なっている。勤務体制は職員の要望を優先的に聞き、調整している。スタッフに理解を求めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	家政婦に委託する場合は、長年にわたって勤務している馴染みの方に来てもらえるようお願いをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>入職時にOJTを設けている。法人内の勉強会への参加をしている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の同業者と交流を行なっている。</p>	<p>○ グループホーム連絡会を通じ、意見交換等をしている。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>行なっているつもりである。(他の職員には言えない事や愚痴等を聞いてあげて相談にもものっている。)</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員それぞれの意見を尊重し話し合いの場を設けている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>声掛けにより受け止める努力を行なっている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>適宜、電話連絡や行事連絡を通じ行なっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	近隣病院への受診に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の協力を得て行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	築こうと努力している。	○	色々な経験をされてきた方たちの本質を見出し日々、一緒に過ごし楽しく生活していきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族からの相談ごとに傾聴しております。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎日買い物へ出掛ける途中で馴染みのある店の前を挨拶しながら行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	認知症の症状には色々あるので、利用者の了解を得て、席の配置換え等を時々行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設への移動された利用者には、定期的に伺っている。	○	今後も変わらず行なっていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	必要に応じて行なっています。 事前にケース会議を開催し、ケアプランに落とし込み把握して、活用に役立てています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	必要に応じて行なっています。 事前にケース会議を開催し、ケアプランに落とし込み把握して、活用に役立てています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	必要に応じて行なっています。 事前にケース会議を開催し、ケアプランに落とし込み把握して、活用に役立てています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員それぞれの客観的視点やいろいろな意見聞きプラン計画をしている(2ヶ月に1回職場内で会議を行ない、意見交換を行ない介護計画に反映している)		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	行なっている。(3ヶ月毎に見直しをしている) 利用者個々の変化を観察する事で、その方にあう生活をしていくようにサービス計画へ反映し、家族にも報告をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の記録や連絡ノートにて行なっている。 ご様子に変化があった時は、入居者様の個々の記録を作成し職員や訪問看護へ伝え情報共有を図っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現状では対応は困難である。	○	11月位から内部のリフォームを計画中である。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアは1回／月来て頂き楽しんでいる。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご利用者様の受けたいサービスを確認し、橋渡しをしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	特にしていません。	○	地域包括センターへ行き、色々な支援の仕方や方向性のアドバイスを受けていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関の選択は、ご家族様の確認を行なっています。一部の方ですが、精神面の受診をされている。担当医にご来訪いただき、状況を診ていただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	内科は公田クリニック、歯科は毎週行なっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制で1回/週の訪問看護と何時でも連絡が取れる、体制を整えている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合は入院先の医師と、専属医の間で話し合い等をして頂いている		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員及び医師と家族を交え、今後の方向性や方針を話し合い、情報を共有し且つ行動している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合は、まず職員で話し合い、その内容を本部・医療機関等へ相談して支援するようにしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	今年は入れ替えはありません。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いは慎重に行なっている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	働きかけは行なっている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者それぞれに合わせた一日を過ごしていただいている 今日はどうしましょうか？と声掛けをしてご自身がどうしたいかを促すようにしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	定期的に理容へお誘いしています。ご本人の希望を優先している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事にも季節感を出したりしている。配膳や片付けは利用者本人が進んでして下さる。職員も一緒に行動している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者に確認しながら、飲み物は出している。(10時と3時)	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定期的な誘導と、その方の様子を見ながら行なっています。尿意や便意がある方は、落ち着かなくなる傾向がありますので、定期的な誘導時間以外にも随時声掛けをしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご本人の希望を優先している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安眠できない方へは、安定剤等の処方を受けている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	配膳・下膳・片付け・食器洗いは、ご自分の役割と進んで行なって下さる方がいらっしゃいます。その都度、職員と一緒に進んでいます。食器洗い等を一緒に出来ない方へは、流し場を複数利用している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前、金銭を個人にお預けした際に不穏になってしまわれたことがあり、現在ではホーム側にて管理している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日買い物に行くので、必ず声掛けをして本人の意思決定で同行して頂いている。懐メロが好きな方が多いので、不定期ですが近所のカラオケに行ったりしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご本人の希望を優先している。何処にいきたいのか聞いても、明確な答えが返ってこないのので、ヒントを出して対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望を優先しています。職員が電話をかけて、電話口に出てもらうなど必要に応じて対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	各居室にて、過ごしていただいています。(本人もリビングよりは、自分の部屋の方が落ち着くし、その際の職員の対応も教育している。)		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束行為はしていません。徘徊のある方も拘束せずに、納得いくまで動いて頂いております。ただし、必ず職員が付いている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	非常口のみ施錠しています。その他は開放していますが、地域的に鍵を掛けないことが危険なので施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	内部は、死角が多いですが巡回しながら安全確認を行なっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	定期的に、各居室の点検(何か持ち込んでいないか等)をしている。貴重品等は、家族様に確認し事務所で保管・管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が起きた場合の対応や火災報知機等の操作方法などを職員に落としこみをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故が起きた場合の対応や火災報知機等の操作方法などを職員に落としこみをしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の方々との交流は、こういうときに役立ちますので、働きかけと言うよりは、この地域にホームがあるのですよと主張して日々地域の方との接触を試みている。	○	非常階段を自力で降りられる方は、数名しかいませんので、改良していきたいと思っている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	来訪時や家族会を通じて、現状の状態報告と家族からの要望等を話し合うことをしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々、バイタル測定をし、変化があった場合はすぐに看護師へ電話をし公田Crの足立Drの指示を仰いでいる。	○	チェックシートを元にNSコールし指示を仰いでいる。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者とケアマネが薬の管理をしています。あとは、訪問看護の看護婦に聞いたりして対応している。個々の服薬や用法・作用について一覧表を掲示している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘症の方に対しては、バナナや牛乳、ヨーグルトを召し上がって頂いたり、水分摂取強化をして便通を促している。出来るだけ、下剤の服用は避けて生きたいので、整腸効果のあるものを召し上がって頂いている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自立の方に関しましては、声掛けをし促しています。要介助の方は都度口腔チェックを行ない、うがいや歯磨きを行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増加・減少を見ながら行なっております。また水分摂取も必要に応じて強化したりしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	取り決めがあり、実行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の消毒は定期的に行なっている。 食材に関しては毎日買い物に行き新鮮な食材を購入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	構造上困難である。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関につきましては構造上困難ですが、その他の居室空間については、定期的にはを飾ったり、音楽をかけたり消臭等を行なっている。	○	共同生活空間のリフォームを検討中である。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自立の方に関しましては、ご自身で席替えをしたりしていますが、要介護者の方につきましては、本人に確認し席替えをしたりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	各居室に関しては、本人と家族の要望にて、対応している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	換気も含め、温度調節は、毎日行なっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	安全を配慮し風呂場・トイレ及び一部の居室には手摺を設けているが、その他は、自立した生活を自由に楽しんで頂いている。	○	リフォームを検討中で、あらゆるところに手すりの設置や風呂場のスロープ設置や死角の減少を行なっていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	出来ることと出来ないことを職員が把握して、利用者に対して接するようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	定期的に清掃を行なっている。またご利用者自身が自由に出入りし、上からの眺めを楽しんでいただいておりますが、活動できるスペースは構造上困難である。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 施設は伊勢佐木町モール街の直ぐ裏手にあり、賑やかな反面そばには桜並木がある大岡川が流れが楽しめる閑静な面もあります。買い物も雨天は近場のデパート(ユニー)で賄える事、天候が良ければ少し距離はありますが、大通り公園を横目に横浜橋商店街まで出かけます。夏場は買い物への行き帰りの途中、大通り公園の木陰で一休みでき、そこで利用者様と落ち着いた会話が楽しめます。
- 開所して8年が経過し、1ユニットのこじんまりしたグループホームですが、ご見学に来られる方々からは落ち着いていてアットホームな感じを受けるとの言葉を頂戴しています。
- 調理場がとても広く作られているので、多くのご利用者様からお手伝いをして貰っています。